様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年４月１９日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2009
課題番号：19530535
研究課題名（和文）
日本におけるスクールソーシャルワークの実証的開発研究－福祉の固有性の探求－
研究課題名（英文）　An empirical developmental study on school social work in Japan ：Search for the peculiarity of social welfare

研究代表者
山野　則子　（YAMANO NORIKO）
大阪府立大学・人間社会学部・教授
研究者番号：50342217

研究成果の概要（和文）：
本研究は、1年目に教員のニーズ調査から、スクールソーシャルワーク（SSW）が必要な領域を明確化し、2008年国が始めることため、全国教育委員会にその報告書を配布した。２年目にワーカー(SSWer)へのインタビュー調査によって、その実践プロセスを明らかにし、３年目にそれらをまとめてわかりやすい形としてハンドブックを作成し、全国教育委員会、SSWerに配布した。並行して研究会を全国規模で21回開催した。

研究成果の概要（英文）：
In the first year, this research clarified the area where the intervention of SSW is necessary by conducting the investigation to the teachers. In 2008, the Ministry of Education allotted a budget for a governmental project of placement of SSWer in elementary, junior high schools in Japan. So this research group distributed the report to the school boards. In the second year, the interview was done to SSWer and clarified the practical process of SSWer. In the result, this research made the handbook and distributed it to the school boards in Japan in the third year. In addition to these performances, the meeting of a nationwide scale about SSW was held 21times.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会福祉
科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学
キーワード：スクール、ソーシャルワーク

１．研究開始当初の背景

学校は、ひとり親家庭や就学援助資金を受給している家庭、生活保護家庭が多く、福祉ニーズが非常に高いことが明らかにである。福祉的な視点で過去の SSW を紹介した論文はあるが（阪倉,2002）、現在の実態の中で福祉的ニーズへの対応を強調したり、子ども家庭相談体制に福祉として位置づけることを主張した研究は見当たらなかった。

２．研究の目的

本研究は、SSW を福祉の子ども家庭相談体制に位置づけ､福祉ニーズに対応する SSW について、実際に実態調査からプログラム作り・その普及・養成プログラムも視野に入れることを目的とする。まだ、日本にＳＳＷが十分根付いていない、スクールカウンセラーとの違いの明確さもないなかで、福祉の固有性に迫りながら、体系的に実証研究として実際の SSW の実践から生み出すことは非常に意義深いと考える。

３．研究の方法

本研究の進め方は、ミシガン大学のトーマスらが提唱する研究開発手続（Design & Development：D&D）を芝野（2002）が簡略化し、修正した手続（M-D&D）に沿って行う。M-D&D の基本的なプロセスは、①問題の把握と分析、②プログラムの叩き台のデザイン、③叩き台の試行・改良、④改良プログラムの普及と挑え、である。以下の図のように進め、国内外を視野に調査、シンポジウム開催、国際学会発表を行う。

＜1 年目＞

Ⅰ.問題把握と分析

１．教師の実態・ニーズ調査

２．ニーズ調査から分析

３.現在のＳＳＷ活動の整理

４．海外調査研究

＜2 年目＞

Ⅱ.叩き台のデザイン

５．ワーカーへのインタビューからプログラムの作成

６.「EBP に基づく SSW」国際シンポジウム開催

＜3 年目＞

Ⅲ.叩き台の試行、Ⅳ.普及

７．プログラムの実行

８．ＳＳＷ養成についての検討

９．プログラムの宣伝

国際学会含む学会発表、論文、著書等

４．研究成果

１年目はニーズ調査結果を報告書にし、最終年には試行調査も行った上でのプロセスを明示化した結果とわかりやすいハンドブックを作成した。これらを１年目は全国教育委員会のみ、最終年には全国の教育委員会、SSWer、研究者、養成大学に配布した。並行して行った研究会の報告書も３冊作成し、同じく全国の上記のところに配布している。

３年間の研究成果は、以下である。成果物については全国から追加を受けている。

① 始まったばかりのあいまいさのある SSW の固有性、その実践プロセスを明示化した
② 文部科学省担当課においても注目され、視察を受けたり、国で作成するガイドとなる本の作成に協力した
③ 養成プログラムについても本研究を発端に、日本社会福祉養成校協会による全国検討に至り、養成システム作成に貢献した（報告書を日本社会福祉養成校協会において 1 冊、本学の養成冊子を１冊作成した）
④ 100 年の歴史のあるイリノイとの交流、調査研究によって、本研究プロセスがエキサイティングであると評価を得て、国際学会にて日本の SSW の成り立ち、研究結果の報告を行った
⑤ 社会福祉系学会や日本社会福祉学校連盟での関心を得て、パネラーとしていくつか招聘を受けた
⑥ 社会からの関心も受け、TV に４回、新聞に３回、雑誌に２回、取り上げられた
⑦ 本学内での SSW 研究会、その発展系の研究会設立に至り、報告書を３冊作成した

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 26 件）

１．山野則子・厨子健一『スクールソーシャルワークハンドブック』2007 年～2009 年度文部科学省科学研究費「基盤研究 C」、2010 年、総 26 頁

２．山野則子『教育系キャリア　コラボ創生プロジェクトー2009 年度報告書ー』（編著：）、大阪府立大学学内 GP、人間社会学部、学校におけるコラボレーション研

究会、2010 年、総 176 頁
3．山野則子『スクールソーシャルワーク教育課程　2009 年度報告』、大阪府立大学・人間社会学部・社会福祉学科・スクールソーシャルワーク教育課程、2010 年、総 36 頁
4．山野則子、教育と福祉の協働、日本学校ソーシャルワーク学会、査読無、通信第 17 号、2010、2-3
5．山野則子、教育と福祉の協働、月刊こころの子育てインターねっと関西、査読無、No.135、2010、2-3
6．山野則子、第１章 SSW 派遣の目的　学校と福祉機関の連携の推進、SSW/SV からみた効果、ＳＳＷ配置・派遣校での活動と市町村での活用ガイド、査読無、大阪府教育委員会児童生徒支援課、2010、19-20、47-48
7．山野則子、子どもを守り・育てる活動の展開～町内会、学校や関係機関との連携や役割、査読無、ひろば第 680 号、2010、13-14
8．山野則子、日本社会福祉士養成校協会によるスクールソーシャルワーク教育課程始まる！、学校ソーシャルワーク学会査読無、通信第 16 号、2009、2-3
9．大島剛・山野則子、児童相談所児童心理司の業務に関する一考察、人間福祉学研究、査読無、第２巻第１号、2009、19-33
10. 山野則子、大阪における取り組み状況、学校ソーシャルワーク研究、査読無、特集号、2009、34-35
11. 山野則子、行政 Up To Date　スクールソーシャルワーク、そだちと臨床、査読無、第６号、2009、47-51
12. 山野則子・厨子健一、スクールソーシャルワーカーの役割に関する新たなモデルの探究：学校配置直後の役割に着眼して、社会問題研究、査読有、第 58 巻、2009、59-69
13. 山野則子・徳永祥子『国際シンポジウム SSW に必要な EBP を示せる力とその養成方法～シカゴのアーバンミッションに基づく教育や実践～』大阪府立大学、2009、総 78 頁
14. 山野則子『学校におけるコラボレーション報告書』、大阪府立大学人間社会学部、学校におけるコラボレーション研究所、2009、総 30 頁
15. 山野則子、第４部　教員交流の実践例Ⅰ．イリノイ大学との国際交流、府大国際交流のさらなる展開へ～他大学の調査と府大国際交流室の活動から～、2009、23-24
16. 山野則子、スクールソーシャルワークの実際と課題、月刊こころの子育てインターねっと関西、査読無、No.129、2009、2-3
17. 山野則子、Ⅰ章３．ケース会議・ケース記録、文部科学省スクールソーシャルワーク実践事例集、査読無、2008、12-29
18. 山野則子『日本におけるスクールソーシャルワークの実証的研究―福祉の固有性の探究―平成１９年度報告書』2007 年度文部科学省科学研究費「基盤研究Ｃ」、2008 年、総 191 頁
19. 山野則子、連載スクールソーシャルワーカー：第１回スクールソーシャルワーカーとは、査読無、保健ニュース 1398 号、2008、2-3
20. 山野則子、連載スクールソーシャルワーカー：第２回生徒の問題解決に向けて、査読無、保健ニュース 1399 号、2008、2-3
21. 山野則子、連載スクールソーシャルワーカー：第３回教員と保護者さまざまなと

ころとの連携、査読無、保健ニュース1400号、2008、2-3

22. 山野則子、連載スクールソーシャルワーカー：第４回今後の展望、保健ニュース1401号、査読無、2008、2-3

23. 山野則子、“スクールソーシャルワーク論－歴史・理論・実践－／山下英三郎ほか編著／学苑社”への書評、ソーシャルワーク研究　査読無、第34巻２号、2008、85、

24. 山野則子、特集：学校ソーシャルワーク元年　スクールソーシャルワークが目指すもの、月刊少年育成８月号、査読無、（通巻629号）、2008、8-13

25. 山野則子、第３章　スクールソーシャルワーカーはどのようなことをする専門家か、スクール（学校）ソーシャルワーカー育成・研修等事業に関する調査研究＜報告書＞、査読無、財団法人社会福祉振興・試験センター委託事業、2008、12-15

26. 山野則子、平成１９年度から全国スクールソーシャルワーカー派遣！大阪府は全国に先駆けて、2005年度から社会福祉士の起用～、会報なにわだより119号、査読無、2007、１

〔学会発表〕（計14件）

１．山野則子・西野緑、日本におけるスクールソーシャルワーク構築の課題 ～大阪府スクールソーシャルワーク事業から～、日本子ども家庭福祉学会第８回大会、2007年６月10日、大谷女子大学

２．山野則子、大阪府でのスクールソーシャルワーク事業の中間検証－福祉と教育の協働のポイント：教育からみて、どう見える？－、日本学校ソーシャルワーク学会第２回大会、特別シンポジウム、企画コーディネイター（招聘）、2007 年７月７日、大阪私学会館

３．山野則子、スクールソーシャルワークの可能性～大阪府SSW事業から～、大阪社会福祉問題研究会、2007年11月24日、大阪市社会福祉センター

４．山野則子、児童虐待防止法改正と、今後の地域における支援の方向性、シンポジウム企画者、コーディネイター、大阪府立大学学内学会、2008年２月16日、大阪府立大学

５．山野則子、スクールソーシャルワーカー養成の視点から、全国社会福祉教育学校連盟・日本社会福祉士養成校協会主催シンポジウム、パネラー（招聘）、2008年５月３１日、東洋大学

６．山野則子、自治体における次世代育成行動計画の進捗状況とその課題：次世代育成からの発展　自治体独自の動きへ～形骸化させない仕組みをどう作るのか～、第９回日本子ども家庭福祉学会　大会シンポジウム、パネラー（招聘）、2008年６月７日、東洋大学

７．山野則子、スクールソーシャルワークの実証的研究、日本学校ソーシャルワーク学会第３回大会　自主シンポジウム企画コーディネイター、2008年７月６日、西南学院大学

８．山野則子、スクール（学校）ソーシャルワーク研究の現状と課題、日本社会福祉学会第56回全国大会自主シンポジウム、企画者、パネラー、2008年10月12日、岡山県立大学

９．山野則子、スクールソーシャルワーク課程設立に向けて、2008年度全国社会福祉教育セミナー、パネラー（招聘）、2008年11月９日、東海大学

10. Noriko Yamano “Introduction of School Social Work in Japan”　The 4th International Social Work in Schools Conference April 14-17 2009, Massey University, in New Zealand.

11. 厨子健一・赤尾清子・山野則子、スクー

ルソーシャルワークにおける社会福祉固有のプロセス、日本子ども家庭福祉学会第８回大会、2009 年６月７日、日本福祉大学

12. 山野則子、ソーシャルワーク実践における「領域」を再考する―社会的ニーズへの応答をめぐって―、日本社会福祉実践理論学会第 26 回日本社会福祉実践理論学会　学会企画シンポジウム　パネラー（招聘）　2009 年７月５日、聖隷クリストファー大学

13. 山野則子、『対抗的公共圏』の諸相から社会福祉を捉え直す、日本社会福祉学会第 57 回全国大会　大会記念シンポジウム　パネラー（招聘）　2009 年 10 月 10 日、法政大学

14. 山野則子、スクールソーシャルワーカー養成を取り巻く現状と任用・配置への戦略～教育行政にソーシャルワーカーは必要ないのか～、2009 年度全国社会福祉教育セミナーコーディネイター兼パネラー（招聘）、2009 年 11 月 8 日、鹿児島国際大学

〔図書〕（計９件）

A. 単著

１．山野則子、『子ども虐待を防ぐ市町村ネットワークとソーシャルワーク』、明石書店、2009 年、総 259 頁、

B．共編著

２．牧里毎治・山野則子、『児童福祉と地域ネットワーク』、相川書房、2009 年、総 166 頁（著者数：10 人、担当：「はじめに、第１章児童福祉地域ネットワーク総論、第８章市町村における子ども専門機関のネットワーク」、ｉ-ⅳ、1-16、105-125）、

３．山野則子・金子恵美、『児童福祉』、ミネルヴァ書房、2009 年、総 269 頁（著者数：11 人、担当：「はじめに」「第１章」「第４章・第１節」、ｉ，1-15，77-90）

４．山野則子・峯本耕治、『ニューウェイブ子ども家庭福祉：スクールソーシャルワークの可能性』、ミネルヴァ書房、2009 年、総 241 頁（著者数：20 人、担当：「はじめに」「第１部・第１章「子ども家庭相談体制におけるスクールソーシャルワーク」、全体のリード、ｉ-ｖ,1-17）

C. 共著

５．山野則子「第６章第２節　学校と福祉をつなげるスクールソーシャルワーカー」小野田正利編『イチャモンの研究――学校と保護者のいい関係へ』ミネルヴァ書房、2009 年、総 225 頁（著者数：13 人、担当：pp. 164-174）

６．山野則子「第５章　社会問題をベースにした相談援助事例」日本社会福祉士養成校協会、編者代表：白澤政和・福山和女『社会福祉士　相談援助演習』中央法規出版、2009 年、総 320 頁（著者数：33 人、担当：pp.252-257）

７．山野則子「児童虐待防止法改正と、今後の地域における支援の方向性―対応がむつかしい親とどう向き合うか―」「地域住民から福祉、教育関係者等への無理難題要求をどう読み解き、対応するのか―イチャモン研究の着地点―」代表編者：吉原雅昭『地域福祉と子ども家庭福祉実践の今日的課題』、大阪公立大学共同出版会、2009 年、総 223 頁（担当、6-49、50-137）

８．山野則子「第３部・第３章　虐待」山縣文治編『子育て支援シリーズ：第５巻　子どもと家族のヘルスケア―元気なこころとからだを育む―』、ぎょうせい、2008 年、総 313 頁（著者数：12 人、担当：180-206）

９．山野則子「大阪府教育委員会におけるスクールソーシャルワーク事業の取り組

み」学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規出版、2008 年、総 321 頁（著者数：26 人、担当：218-225）

〔その他〕
ホームページ等
http://www.human.osakafu-u.ac.jp/ssw/index.html

６．研究組織
(1)研究代表者
山野　則子（YAMANO　NORIKO）
大阪府立大学・人間社会学部・教授
研究者番号：50342217
(2)研究協力者
・厨子健一（ZUSHI　KENICHI）
大阪府立大学後期博士課程
・赤尾清子（AKAO KIYOKO）
大阪医療専門学校非常勤講師
・中野澄(NAKANO　KIYOSHI)
大阪府教育委員会児童生徒支援課
・金澤ますみ（KANAZAWA　MASUMI）
大阪人間科学大学
・野尻紀恵（NOJIRI　KIE）
神戸常盤短期大学